令和2年度（2020年度）第1回 熊本市社会教育委員会議

会議録

【開催方法】 書面開催

【発送日時】 令和2年（2020年）10月14日 会議資料発送

【令和2年度（2020年度）第1回熊本市社会教育委員会議開催について】

熊本市社会教育委員の全委員により審議が行われており、会議は成立。

■熊本市社会教育委員

八幡 彩子 委員

諏訪園 勉 委員

山川 李好子 委員

加藤 貴司 委員

小澄 直 委員

高木 徳文 委員

吉村 圭四郎 委員

橋口 健二 委員

田中 洋子 委員

（順不同）

【会議資料】

- ・【議事(1)】 令和元年度学校・家庭・地域連携協力推進事業等の実施について
- ・【議事(2)】 令和2年度熊本市社会教育関係事業について
- ・【報 告】 熊本市生涯学習推進計画について
- ・参考資料（関係法令）

意見者	意見・質問等要旨
【議事(1)】	令和元年度学校・家庭・地域連携協力推進事業等の実施について
	<まなびタイム（学びノート教室）>
委員	私の子どもが小学生だった頃から始まった事業で、学びノート教室に参加して、学習の習慣がついたり、学力が向上したりした同級生がいたことを記憶しています。貴重な活動だと思います。平成31年度から「学年ごとの参加数調査はしていない」ということですが、全体の参加人数だけでも状況がわかると思います。とくに、今年度は、新型コロナの影響が、まなびタイムにどのように影響したのか（しなかったのか）を把握・検証することも大切ではないかと思いました
指導課	令和元年度の「学びノート教室」は、夏季休業期間の実施を含め、64校で実施されました。ただ、本年度実施した昨年度の「学びノート教室」に関する調査では、参加した児童の総数については調査を実施しておりません。しかし、コロナ禍の折、臨時休業期間を経て学校再開後に実施している今年度の「学びたいむ」については、今後の事業の検証のために、参加児童数を把握して参りたいと考えております。
	<放課後子どもスポーツ教室>
委員	学校の部活動の指導も、地域学校協働推進事業として取り組んでもよいように思うのですが、部活動の指導と、このスポーツ教室とは、どのように住み分けをされているのでしょうか。
スポーツ振興課	部活動は学校教育活動で、子どもスポーツ教室は学校教育活動外と区分されています。部活動は学校管理下で教員を中心に運営や指導されますが、子どもスポーツ教室は学校管理外の運営と位置付けられ、本教室は地域学校協働推進事業であることから、当該学校の地域団体で運営しています。子どもスポーツ教室は、活動の場として学校を利用し、運営や指導を地域が行うという協働事業として毎回開催しています。
委員	P7で説明してあります放課後子どもスポーツ教室は、平成20年頃より始まり、10年以上継続した活動であり、地域と学校が連携して、「子どもたちの安全・安心な居場所づくり」に貢献してきたと思います。 課題は、2年間の委託事業を終了した後の取り組みです。委託終了後は、クラブの自主運営で活動を継続することになっていますが、現在の状況はどうなっているのでしょうか。できれば、終了後も継続していけるようなサポート体制を検討していただきたいと思います。
スポーツ振興課	現在2年間の教室運営業務委託後、自主運営で活動を継続している学校は4校です。 自主運営に対するサポート体制としては、学校への場の提供や参加者募集の協力依頼や、運営団体へは活動に必要なスポーツ用具の長期貸出などのサポート体制を取っています。また、運営団体の依頼に応じて指導者派遣等のサポートを行っていますが、放課後の時間帯に対応できる指導者が少なくなっていることから、多くの教室が開催できず、自主運営につながっていない現状があります。まずは、指導者の確保に対して、本市スポーツリーダーバンクや各競技団体との連携強化を図っていきたく考えています。
委員	放課後子どもスポーツ教室は、小学校3年生対象ということと安価で活動に参加できることがとてもよい取り組みと思います。小学校3年生という年齢は、児童育成クラブでの活動は、もう物足りないと思って離れていく年齢でもあります。しかし、保護者が働きに出ており、家庭において保護者不在の現状があります。クラブチームに参加したり、習い事に行く子どももいますが、家庭の経済状況では難しい現状も多々あります。この取り組みが好評であるならば、実施される場所や回数が増え、より多くの子どもたちの笑顔が増えることを願っています。
スポーツ振興課	毎年、スポーツ教室終了時期に参加児童及び保護者へのアンケートを実施していますが、どの教室も「とても楽しい」「もっとしたい」「来年も参加したい」といった評価を多くいただいています。令和2年度までに、小学校92校中29校の開催を行ってきていますが、今後も、全小学校での開催を目標に、地域と連携しながら、開催を続けていきたいと考えています。

意見者	意見・質問等要旨
	<子ども科学・ものづくり教室>
委員	子ども科学・ものづくり教室の令和元年度の実施状況の参加数を見ると、子どもたちが非常に興味を持っていることがうかがえます。令和2年度についても子どもたちが楽しみにしていたと思われますが、新型コロナウイルス感染拡大のため、例年通り開催できなかったのは、残念です。今後さらに取り組みを充実させてほしい事業です。
博物館	平成30年12月1日のリニューアルオープン以降は、新設された実験・工作室や講堂を主会場として教室を開催し、多くの小中学生（と保護者）の皆さまに喜んで参加していただいています。現在は感染症防止対策として事前申込・少人数定員制で実施せざるを得ないところですが、ウィズコロナ、アフターコロナの段階に応じて本来の運営に戻していきたいと考えています。また、大学や高等専門学校、NPO、教育サークルなど、同様の教室開催経験を有する団体との連携・協働を図り、内容も充実させてまいります。
委員	多くの教室が開かれており、たくさんの参加者数があることに驚きました。
博物館	平成11年度から熊本博物館の主催事業として「不思議の種まき」をする目的で開催しています。科学実験や科学工作を中心に直接体験の場を重視した教室を開催しており、現在では年間25回程度実施しています（平成28年度以外）。平成30年12月のリニューアル以降は参加者がさらに増え、昨年度は2000人を超えました。
	<公民館子ども講座>
委員	回覧板などで、公民館で講座が開かれていることは知っていましたが、たくさんの参加者があることを知ることができました。
	<子どもチャレンジ公民館>
委員	学校以外の場で、子どもたちが主体となって、イベント等を企画・運営するというこの事業は、関わっていただく方のお手間を要するものと拝察しますが、とても意義が大きい事業だと思います。ボランティアとしてかかわっている熊大メイクフレンズの学生も、実践的な学びの機会となっていること、感謝しております。
	<家庭教育支援活動>
委員	今年度は、新型コロナウイルスの影響により、実施が難しい面があるのだろうと拝察いたします。「オンライン」という方法で実施する、ということは、これから検討しなければならない課題だろうと思います。熊本市の学校の保護者さんは、ZoomやYouTube等での在宅での学習環境は整えられているのでしょうか。オンライン・オンデマンドで、時間や場所にこだわらない学びの機会の提供と、学校等に集まって取り組む活動とのメリハリもあるとよいのかもしれませんが。オンライン・オンデマンドの学びの機会が充実することにより、仕事の都合などで参加できない方も参加できるようになる可能性があります。よりよい活動となるよう、ご検討をお願いします。
青少年教育課	<p>例年、家庭教育セミナーは就学時の健康診断にあわせ、各学校・集合形式で実施されていましたが、新型コロナウイルスの影響により、現時点で集合形式のセミナーの開催は1回にとどまっています。</p> <p>新しい生活様式に対応した家庭教育セミナーを実施するため、オンライン会議システムを活用した、家庭教育セミナーの開催を検討・試行の後、本年8月から教育広報誌「With You」や熊本市ホームページを通じ、募集を開始しています。</p> <p>これまでにお二人の講師のご協力で、2回のオンライン版家庭教育セミナーを開催することができ、参加者からは「自宅でセミナーを受講でき便利」「アンケート機能があったり、小グループの話し合いもでき驚いた」といった感想をいただきました。</p> <p>今後は、オンライン版家庭教育セミナーに加え、家庭教育に関する動画配信を検討しているところです。</p>

意見者	意見・質問等要旨
生涯学習課	公設公民館では、公民館を訪れることなく、家にいながら、誰もがオンラインで公民館講座を受講できるような仕組みづくりの準備を進めています。
委員	例年家庭教育地域リーダーステップアップ研修が実施されているようですが、養成講座終了生数とステップアップ講座の参加者数に乖離があるように見受けられます。2か月ほどで5回程度実施するのも一つの方法ですが、朝から夕方まで1日での実施も検討の余地があるのでは。そうすることで、複数回の参加は無理でも1日であれば参加できる修了生もいるでしょうし、複数回実施で1回の時間が短くてできない研修もまとまった時間を使ってできることがあるのではないかと考えます。
青少年教育課	<p>昨年度から過去の修了生に加え、知り合いの方にも参加を呼び掛けていますが、参加者数はあまり変動がない状況です。</p> <p>5回の研修にはそれぞれねらいがあり、それを受講生の皆さんにしっかりと学んでいただくためには、1度に長時間行うよりも、2時間程度に分けて実施した方が有効との考えから、現在のような形で実施しております。</p> <p>なお、全ての回に出席していただくことが望ましいとは考えますが、1コマだけでも貴重な再履修の機会となりますし、リーダー同士のつながりづくりもできますので、今年度の開催にあたっては、1コマだけの参加でも歓迎する旨を併せて周知させていただきます。</p>
委員	<p>家庭教育支援活動の中で、特に家庭教育学級は、平日のお昼に行われることが多く、お母さん方の参加が基本的に多いと思われまます。今後は、オンライン化も検討されているということで、日中働いている保護者や父親の参加も見込まれるので良い傾向だと思います。</p> <p>ひとり親の方々の、日々の生活に精一杯のご家庭もあると思います。そのようなご家庭が孤立しないようなネットワーク作りをお願いしたいと思います。</p>
/	<放課後学習教室>
委員	まなびタイムの中学校版でしょうか。塾が一般化する中、中学校におけるこうした活動も意義あるものと推察します。対面で会議が実施されていたら、どのように実施中学校を選定されているのか、活動の意義、課題（例えば、大学生は二人ということですが、指導体制などに課題はないのか、など）をお伺いしたいと思いました。
子ども政策課	<p>当該事業は、子どもの貧困対策の推進の取組として、子どもの将来が家庭の環境で左右されることなく、世代を超えて連鎖することがないよう、教職員退職者や大学生等による空き教室を活用した「放課後学習教室」を実施することで、子どもたちの学習の機会の確保と充実、子どもたちの学ぶ意欲の向上や学習の習慣化、基礎学力の定着を図ることを目的としております。</p> <p>実施中学校については、教育委員会との連携や、退職校長会等の協力により選定を行っております。</p> <p>課題については、実施中学校の拡充、指導員の確保に腐心しております。</p>
指導課	中学校で実施する学びたいむは、指導課より募集し、参加を希望する中学校で実施しています。「学びたいむ」は、前身の学びノート教室から、退職校長会の協力を得て、元校長と大学生がサポーターとして参加し、夏季休業期間に実施しています。本年度は、コロナ禍により夏季休業期間の短縮、3密を避けるための実施教室の確保・消毒作業など、運営上の課題はあったものの、結果として5校が実施しました。学びたいむ終了後に実施したアンケートでは、5校とも「実施してよかった」と回答し、参加した256名の生徒の94%が、「ためになった」「ややためになった」と回答しています。一方、学校から参加生徒が増えた場合のサポーター（主とした大学生）の確保、コロナ禍の折、新型コロナウイルス感染防止の徹底が課題として報告されています。

意見者	意見・質問等要旨
委員	<p>「学びたいむ」「放課後学習教室」の実施は、児童生徒の学力保障の取り組みとしてはよい企画と思います。しかし、現状として、学校教育との兼ね合いの中、子どもたちに本当に効果的に作用しているのだろうか？と疑問に思います。「学校教育との兼ね合いの中」というのは、年間の授業時数が多くなり、一日の授業時数が増加し、学校現場に本当の意味での放課後という時間が無くなっているという現状です。「放課後」という時間はとても貴重なものです。その「ゆとり」の時間があるからこそ、生み出される貴重なコミュニケーションがあります。例えば、「学習」という枠組みでは、授業の中で理解が不十分だった子どもや学習が遅れがちな子ども、宿題をしてきていなかった子ども達等に教師が個別に支援・指導できる時間が取れます。また、委員会活動等の特別活動の時間の確保ができます。悩みを抱えている児童生徒と会話する時間が取れます。とても良い活動でも、現状にそぐわない内容では、最大限の効果は期待できません。児童生徒の学力を向上させるのは、まず「授業」の充実です。「授業」の効果を最大限に上げるための施策（例えば、教師の複数指導体制）に予算を付けていただきたいと思います。</p>
指導課	<p>今年度から実施している「学びたいむ」は、これまでの「学びノート教室」を引き継ぎ、学ぶ意欲の向上と学びの習慣化を目指し、タブレットの学習支援アプリを中心に補充学習等に取り組むもので、参加者によって次の2つに分類されます。</p> <p>①参加希望児童対象（学校裁量で、これまでの学びノート教室と同様）</p> <p>②全児童対象（補充学習全般）</p> <p>この内、授業中に質問できなかった箇所や苦手な問題を、大学生等のサポーターに気軽に質問でき、自分なりのペースで学ぶことができる（①）による学習は、児童にとって、「もっと分きたい」を保障できる貴重な学びになっています。</p> <p>また、各小学校では、週時程や児童の発達段階、学習の効果等を考慮し、朝自習や学年毎の学校裁量の時間等に一齐に「学びたいむ」に取り組まれています。（②）この折に活用される学習支援アプリは、児童一人一人の実態やニーズに応じた学習が可能となっており、正に、個に応じた学びと習慣化が実現されています。</p> <p>一方、学校再開後の学習を支援するため、今年度は、各学校に新たに学習指導員が配置され、授業において個に応じた指導の充実が図られています。さらに、教えてもらう授業から、児童自らが学びとる授業への転換を図るため、各学校では、授業改善にも取り組んでいるところです。</p> <p>今後も、子どもが主体となる授業改善に加え、人的支援による学びの個別化や補充学習等の取組を通して、児童生徒の学力の向上を図って参ります。</p>
	<p><その他></p>
委員	<p>子ども科学・ものづくり教室、公民館子ども講座、子どもチャレンジ公民館等は、子どもたちが多くの体験を積むことができたことが素晴らしいと思います。人間は、経験したことで成長します。コロナの中大変とは思いますが、今後もこのような多くの体験の場を企画・運営していただけますようお願い致します。また、「今後の実施事業について」の項目の中で、SDGsをしっかりと意識され、次世代を担うリーダー育成を目指すと書かれていたことがとてもよいと思いました。</p>
博物館	<p>子ども科学・ものづくり教室におきましても、SDGsの「質の高い教育をみんなに（ゴール4）」を柱に、その他の関連するゴールやターゲットも意識した取組を進めております。「体験を通して学ぶ・試行錯誤しながら根気強く取り組む」機会を提供すべく、今後も魅力的な教室開催ができるよう内容の工夫と改善に努めてまいります。</p>
委員	<p>新型コロナウイルスの影響がありますが、この状況の中でも子どもたちにできることをしてほしいと思います。</p>

意見者	意見・質問等要旨
委員	それぞれの部署でできることをされていていいと思います。しかし各種取り組みへの参加者が少ない。余裕の無い家庭が増えています。毎年のような災害や今回のコロナの影響でますます格差が広がり利用者が減るのではないのでしょうか。
生涯学習課	仕事で公民館を利用できない方や新しい生活様式への対応として、公民館を訪れることなく、家にいながら、誰もがオンラインで公民館講座を受講できるような仕組みをつくることで、利用者の増加に努めてまいります。
青少年教育課	<p>教育委員会では、11月8日(日)～11月15日(日)にかけて、ほぼ全てのプログラムをオンラインで行う教育イベント「Kumamoto Education Week (KEW)2020」を開催しました。</p> <p>その中で、当課では、10のオンラインセミナーやトークセッションをYouTubeで配信し、12月1日時点での視聴回数は4,000回を超えている状況です。</p> <p>また、KEW2020では、白川流域を実際に歩く活動(フットパス)も実施し、定員(20名)を超える参加がありました。</p> <p>オンライン配信ではさまざまなトラブルが起きましたが、今回の経験を踏まえ、次年度以降、更なる充実に努めてまいります。</p>
博物館	災害や感染症等の発生によって家庭の余裕や個人の参加意欲が削がれ、参加者が減少するという現実はあるかと思えます。そのような状況にあっても少しでも皆さまの心の拠り所として、心豊かな生活の糧として、ぜひ参加してみたいと感じていただけるような取組の提案、出向かなくても自宅で追体験できるような情報提供等(ICTの活用)に努めてまいります。
文化財課	本年度はコロナ禍で、当課主催の出前講座や歴史講座についても多くが中止となりました。今後もコロナ禍で文化芸術を鑑賞する機会がますます減少していくことが予想される中、「新しい生活様式」に対応したオンラインを利用するようなコンテンツを提供することにより、文化芸術に触れる機会を創出していくことが重要と考えています。

意見者	意見・質問等要旨
【議事(2)】	令和2年度熊本市社会教育関係事業について
委員	<p>昨年度の決算との比較に基づく妥当性しか述べられませんが、全体としては適正な予算なのだろうと思います。昨年度の決算額と比べて、以下の事業予算が多くなっています。根拠についてご説明伺いたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財調査経費、（震災）文化財等災害復旧経費、史跡保存活用経費 ・子ども科学・ものづくり経費、特別展等開催経費、博物館施設整備経費 ・金峰山少年自然の家関連経費 ・学力向上対策経費 ・子どもスポーツ教室、学校体育施設夜間開放経費
文化財課	<p>【埋蔵文化財調査経費】 民間事業者等から受託して行う発掘調査費用が大部分を占めており、予算が不足すると調査ができなくなり民間事業者に不利益をもたらすことになります。したがって、突発的な依頼が入った場合にも対応できるような予算を組んでおり、決算についてはその年の受託件数や規模により額が左右されます。</p> <p>【（震災）文化財等災害復旧経費】 震災復旧事業については、工事対象の施設および工事対象の施設数も毎年度異なるため、必然的に予算事業費も年度毎に増減が生じます。</p> <p>【史跡保存活用経費】 令和2年度予算においては、新規の国庫および県補助事業として「細川家墓所保存活用計画策定」にかかる測量委託業務を約24,000（千円）計上しており、予算増大の唯一の要因となっています。</p>
博物館	<p>【子ども科学・ものづくり経費】 1/3国庫補助事業のため、交付決定額に連動します。 予算額は見込額で積算するため事業費増となります。</p> <p>【特別展等開催経費】 特別展及び企画展の内容により、毎年、事業費は異なります。</p> <p>【博物館施設整備経費】 大規模な外壁・屋根改修工事を行うことによるものです。</p>
金峰山少年自然の家	<p>【金峰山少年自然の家関連経費】 再建に向けて解体設計費と民間活力導入可能性調査を含む基本計画策定経費等が必要となったため、前年度と比べ増額となっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本計画策定業務経費 8,000千円 ・解体設計経費 3,800千円 ・検討委員会経費 360千円 ・その他施設管理経費 4,740千円
指導課	<p>平成30年度は、全ての小学校で学びノート教室が実施され、約180名のサポーターが放課後の児童の指導に当たりましたが、同年度で学びノートの配付が終了することとなりました。</p> <p>平成31年度は、電子化された学びノートを活用する一方、平成30年度から導入が始まったタブレットの学習支援アプリを活用した「学びノート教室」が可能となりました。</p> <p>しかしながら、平成31年度は従来の学びノートの活用からタブレットを活用した「学びノート教室」への移行期であったこともあり、結果として学びノート教室の開催は64校に留まりました。</p> <p>そこで、本年度は事業名を「学びたいむ」とし、従来どおり放課後に希望者を募って実施する形と、学校の週時程を工夫し学年や全校単位で実施する補充学習の時間の双方で、タブレットとサポーターの活用を可能としました。これにより、昨年よりも多くの学校が「学びたいむ」に取り組むことが予想されたため、昨年度決算額よりも多い額を予算として要求したところです。</p>

意見者	意見・質問等要旨
スポーツ 振興課	<p>子どもスポーツ教室経費について、R1年度予算額1,350千円に対して決算額550千円であるのは、5教室の開催予定に対し、2校のみの開催となったことによるものです。R2年度予算額1,150千円は、4教室の開催を見込んだものです。</p> <p>学校体育施設夜間開放経費については、R2年度より、学校夜間管理人が非常勤職員から会計年度任用職員へ移行することに伴い、70人の管理人報酬の増額分がR2年度予算額となっています。</p>
委員	<p>社会教育関係課組織図を見てみると、色々な局の中で子どもたちの育成に関わる課があります。それぞれの連携は強くなされているのでしょうか？特に、生涯学習課は、教育委員会事務局とは別に組織されているので連携がととても取りにくいのではないのでしょうか？特に熊本市生涯学習推進計画では、「リカレント教育の推進」が新規に計画されています。良い企画も連携がされていないと効果は発揮できません。また、それぞればらばらに計画することで、無駄な労力と出費が出てきます。全体を把握するコーディネーター役を配置し、各課がしっかりと連携し、計画が遂行されますよう要望いたします。</p>
生涯学習課	<p>生涯学習に携わる部署は、別冊資料2にありますように、市長事務局、教育委員会に関わらず多数ありますが、生涯学習に取り組む庁内の関係各課を集め定期的に庁内会議を開催し調整等行い、また各課の進捗状況を把握することで、計画が適切に実施されるよう図ってまいります。</p>
委員	<p>博物館には展示されていなかったり貸倉庫に保管されている膨大な資料や保管品について、リスト化されていないのであればその必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>そしてその中で処分可能なものがあれば手順（例えばオークション）等を明示して処分していくことも考えてよいのではないかと思います。</p>
博物館	<p>博物館の資料は、熊本市所有の施設以外では保管しておりません。博物館は単に資料を展示するだけの施設ではなく、資料を健全な状態で保存し後世に伝えていくことも大きな使命のひとつです。展示していない資料が無駄なわけではありません。収蔵資料は、学芸員が日々整理・登録作業を行っており、リスト化を進めているところです。</p> <p>来歴の不明な資料で、今後の活用が見込めないものに関しては、適正な手続きをとった後、処分することも考えられます。</p>
委員	<p>金峰山少年自然の家は、今後どのように運営されていくのでしょうか？</p> <p>また完成、稼働時期はいつ頃になる見込みでしょうか。</p>
金峰山少年 自然の家	<p>今年度、現地での再建に向けて、運営形態も含めた民間活力導入可能性調査等を行いながら、基本計画策定に取り組んでいます。</p> <p>再建にあたっては、これまでの青少年施設としての役割を継承しつつ、自然を通してすべての市民が利用できる生涯学習の拠点施設として整備することを検討しています。</p> <p>完成、稼働時期の目途につきましては、基本計画の中でスケジュールを示す予定です。</p>
委員	<p>公民館とまちづくりセンターの違いがわかりません。</p>
生涯学習課	<p>公民館は社会教育法第21条に基づいて市内に設置されており、多様な学習機会や集会の場の提供等地域における住民の学習需要に総合的に応える社会教育施設です。公民館の総括については、熊本市教育委員会の権限に属する事務の一部ではありますが、市長の補助機関たる職員に補助執行させています。</p> <p>一方で、まちづくりセンターは市長部局である区民部に設置されており、平成29年度から出張所や公民館等をまちづくりセンターとして再編し、まちづくり支援専任の地域担当職員を配置することで、地域づくりを支える行政の支援体制の充実を図っています。</p>

意見者	意見・質問等要旨
委員	<p>学力向上対策（まなびたいむ）、放課後学習教室開催経費については、年度末の新型コロナの影響が多少あったにしても、前年度決算額と比較して予算額が増えています。</p> <p>特に学力向上対策（まなびたいむ）については、令和2年度からタブレットを活用するなど実施方法が変更になっているようなので、全学校で取り組めるように指導者等関係者の研修会を実施し、児童の学ぶ意欲の向上や学びの習慣化、基礎学力の定着化に予算を活かしてほしいと思います。</p> <p>放課後学習教室についても、退職教員等の指導員との連携や協力を図り、予算を全部使って、学習機会の充実を図り、基礎学力の定着化を目指してほしいと思います。</p>
子ども政策課	<p>子どもの貧困対策の推進の取組として、子どもの将来が家庭の環境で左右されることなく、世代を超えて連鎖することがないように実施しているところです。</p> <p>今後も引き続き、関係機関との連携、協力を努め、子どもたちの学ぶ意欲の向上や学習の習慣化と基礎学力の定着を図ってまいります。</p>
委員	<p>新型コロナ対応という観点から変化が生じている費目などあればご説明伺いたいと思います。</p>
生涯学習課	<p>公民館費・公民館オンライン講座開催経費として、撮影用デジタルカメラ及び三脚、オンライン講座用消耗品等の費用が増加しています。</p>
博物館	<p>事業を実施する前提条件として、参加者の安心・安全に直結する感染症予防対策に係る費用が増加しています。</p>

意見者	意見・質問等要旨
委員	【報告】 熊本市生涯学習推進計画について
	熊本市の担当部署ならびに策定委員会委員の皆様のご尽力により、立派な理念・計画により生涯学習が推進されていること、喜ばしく思いました。策定時点以降、社会的状況が変化していることもあり、いくつか気がついたことを述べさせていただきます
	(生涯学習推進計画について)
	p.6 SDGsの理念・取組については、市政だよりでもお知らせいただいているところかと思いますが、SDGs未来都市の選定を受けた熊本市においては、いろいろな機会に、取組みについて熊本市民に啓発する機会があるとよいと思います。
	p.12 今後、このような調査を行う時、「オンラインなど、時間や場所にこだわらず、生涯学習を推進できる環境の整備」といった調査項目が入るとよいように思いました。
	p.14 一番下にある、オンラインコンテンツの作成・充実、など、これから取り組むべき課題として重要だと思いました。
	p.16 「障がい者の生涯学習の機会を増やす必要」については、その通りだと思います。ちなみに、附属特別支援学校では、同窓会を開催する時に、NPOなどと連携した学習の機会を設定するなど工夫しています。障がい者の遠隔学習のスキルを高めることも大切だと思います
	p.34 男女共同参画センターはあもにいの内容が記載されています（私ははあもにいの運営審議会委員も仰せつかっています）が、はあもにいに限らず、熊本市はいろいろな施設で社会人向けの講座が開催されていると思います。切れ目のない「生涯学習」を実現するためには、これらのさまざまな取り組みを、市民全体で共有していけることが大切だと思います。それらの共有化（ワンストップ化）の役割をどこが、どのように担うのか、そして、それらの講座等をいつでもどこでも視聴できるようなオンデマンドコンテンツとして活用していけるような体制・環境の整備を期待します。
	p.36 「地域交流推進事業」とあります。私は専門が家庭科なので、熊本市の中学校・家庭科の研究授業や研究発表会で、学校・家庭・地域が連携した熊本市のすばらしい取組をいくつも見せていただきました。「事業」として実施する、ということも大切ですが、「社会に開かれた教育課程」を実現させることが求められる学校において、地域と家庭と学校が連携するどのような取り組みが行われているのか、情報誌等で熊本市民に情報発信する機会をぜひ持っていただきたいと思います。地域の方たちとのあたたかい交流の中で育ち、将来、この熊本市を支えるために熊本市民として暮らしていきたい、と思える生徒たちが、熊本市の学校教育・地域の取組みの中で育っていくことを願ってやみません
	p.39 ICT教育の推進について：熊本市の学校教育におけるICT教育は、全国的にも最先端を進んでいると認識しています。それをいかに社会全体に普及させていくのかが社会教育・生涯学習推進の課題と考えます。学校の中だけICT化が進んでも、社会全体でICT化が進まなければ、普及が進みません。社会教育の最重要課題として、ICT教育推進には取り組んでいただきたいと思います。例えば、各家庭にZoom等の普及が難しい場合でも、公民館等に行けば、そこで、オンデマンド・オンラインの学習ができる、というような身近な拠点づくりも必要かもしれません。（もちろん行政のICT化も必要ですね。）
p.40 障がい者の生涯学習：附属特別支援学校（知的障害）では、アールブリュット、スペシャルオリンピックスに関わっている児童生徒、卒業生がいます。障がい者に関することについては、附属特別支援学校の取組みをご紹介できるかもしれません	
(生涯学習推進計画にかかる取組について)	
すでに新型コロナ対応もある程度考慮した取組を挙げられているようで、いずれも充実した取組と思いました。（特に意見はございません。）	

意見者	意見・質問等要旨
委員	<p>熊本市生涯学習推進計画及びその取り組みについては、全体的に良く整理され、まとめてあると思います。</p> <p>特に、基本施策ⅡやⅢの中で、現在の課題である「青少年の健全育成」「ICT教育の推進」「リカレント教育の推進」「障がい者の生涯学習の推進」「熊本地震の体験や教訓を生かした取り組みの推進」等を新規に掲げてあることはよかったと思います。</p> <p>近年、地震や台風、集中豪雨などの自然災害が全国各地で多発しています。このような状況を考えると、地域防災力の向上を図ることは大変重要です。そのため様々な場面での防災教育講座の実施や「校区防災連絡会」「避難所運営委員会」による防災訓練等必要であり、推進計画でうたっているように実施してほしいものです。</p> <p>また、末端の組織である自主防災クラブの組織率が100%（別冊1、P38,検証値R5）になるよう取り組むことが大切であると思います。</p>
委員	<p>新熊本市生涯学習推進計画の作成大変お疲れ様でした。膨大な資料作成に頭が下がります。今後動画配信の実施やスマートフォン等の活用など、時代にあった取り組みが企画されているようでとても楽しみです。</p> <p>各項目の推進にあたり、色々な取り組みの例が挙げられていました。目に見える実践がなされますことを期待しています。</p> <p>図書館に関しては、成功している他県の図書館や民間の書店の取り組みなどを柔軟に取り入れ、若い世代に本に携わる機会・環境の整備を積極的に行っていただきたいと思います。電子書籍貸し出しサービスは、良い方策と思いました。</p> <p>障がい者の生涯学習に関しては、A型事業所やB型事業所等、民間の各事業所が独自に長い間取り組まれてきています。その団体との連携がより良い活動に繋がると思います。また、児童生徒が特別支援学級や特別支援学校に在籍中の段階からの計画的な施策が必要と思います。</p>
委員	<p>今年度はコロナ禍の影響で地域連携の活動の多くが制限されていると思いますが、まちづくりセンターと各校区青少協などの地域団体と連携することで活動の幅が広がるのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>生涯学習は生活に余裕が無いとその気にはなれません。ボランティアもそうです。50%の目標にはなかなか難しい社会情勢があります。熊本市全体で、そのことに取り組んでいくことが大切だと思います。</p>
委員	<p>生涯学習の対象となる領域は余りにも広く、あらゆることに手を広げ過ぎると收拾がつかなくなってしまいます。そのためには基本的な重点領域を考えた方がいいのではないかと思います。</p> <p>例として、郷土の歴史や文化に関する事、 伝統芸能や伝統文化に関する事 等々</p>

意見者	意見・質問等要旨
【その他】	意見等
委員	<p>さすがは、政令市熊本の取り組み、とても充実していると思いました。</p> <p>すでに述べましたが、この度の新型コロナ対応で、社会教育・行政のICT化のための環境整備は避けて通れないのではないかと思います。そのための予算化もお願いしたいと思います。</p> <p>熊本市は大きい組織であるがゆえに、いろいろなところで生涯学習につながる取り組み・活動・イベント等が実施されているのですが、それらが、社会全体で共有されているとは言えない状況にあると思います。</p> <p>すでに、各所で取り組まれている特色あるすばらしい取組を掘り起こし、共有するだけでも、「住み続けたい」「住んでみたい」と思える「上質な生活都市」という「熊本市第7次総合計画」の理念に近づくのではないかと思います。</p> <p>ご尽力をお願い申し上げます。</p>
委員	<p>熊本市の教育力向上に、日々、ご尽力いただきますことに感謝申し上げます。</p> <p>コロナによる休校等により子どもたちの学力低下が懸念される中、熊本市はICTを活用してのZoom授業の配信等素晴らしい実績を残されました。リーダーシップを取られた教育委員会や情報教育推進室、教育センターの先生方は大変なご苦労だったと思います。これからも、時代のニーズに合わせて、子どもたちにより良い教育を渡していただきますようお願いいたします。本当にありがとうございました。</p> <p>昨年まで毎月発行されていた「公民館便り」が、今年度はあまり発行されていません。自治会長さんにたずねたところ、「コロナによる自粛等の関係で配布がされないと市役所から言われました。」とお返事を頂きました。配布物にもコロナウイルスが付着していたらいけないから…という懸念から廃止されていたのでしょうか？しかし、地域住民にはその意図は伝わっていなかったのが現状です。高齢の住民の方の中には、月に一回の回覧をととても楽しみにされている方々もいらっしゃいます。インターネットで市役所ホームページを閲覧される高齢者の方々はまだ少ない現状です。今後の検討事項としていただけるとありがたいです。公民館便りの内容の充実を期待します。</p>
委員	<p>各部署の取り組み、まちづくりセンター、各公民館等よく頑張られています、成果というとなかなか難しいと思います。公民館講座の既存権（同じ方が居座っている）など、新しい方がなかなか入れないなど問題点があります。また、各校区、町内公民館などは何もしていない。補助金があるから、何かしないといけないなどの問題がある。校区婦人会には補助金がなく、校区婦人会が一つ減り、また一つ減りしたのはそのような訳です。婦人会は少ない数で今頑張っています。災害が毎年でてきている昨今、地域に根差した活動は婦人会しかできません。愚痴を言っているわけではありません。このままだと婦人会は無くなります。それでいいのですか？ということです。</p> <p>学校・家庭・地域連携協力事業を推進していくためには、各校区に婦人会を作るべきです。そうしたら、この事業はうまくやっていけるのではないのでしょうか。その努力を行政にはしていただきたい。</p>
委員	<p>今年度はコロナ禍の影響で地域連携の活動の多くが制限されていると思いますが、まちづくりセンターと各校区青少協などの地域団体と連携することで活動の幅が広がるのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>SDGsの観点から、誰一人取り残さない社会、自然と文化と先端テクノロジーが融合し、相乗効果を生み出す熊本の実現に資するような計画・取組になることを期待します。</p>
委員	<p>熊本市生涯学習推進計画は、素晴らしいものです。あとは、「絵に描いた餅」にならないように、関係各課が連携・協力して、具体的取り組み内容の実現に向かって努力してほしいと思います。</p>